

スーホの白い馬

大草原の祈り

in 名古屋

コンサート



包金鐘〈テノール〉

李波〈馬頭琴〉

名古屋から世界にモンゴル音楽を発信した
馬頭琴奏者リボーが
地元で活躍するモンゴル人と共に 音楽を発信！

● 演奏曲目 ●

スーホの白い馬
草原情歌
蘇州夜曲
万馬の轟 ほか



北川美晃〈ピアノ〉



安井 正規〈電子オルガン〉



望月 雄史〈カット・ギター〉



温都蘇〈ホーミー〉



都古尔〈モンゴル舞踏〉



劉晶晶〈中国舞踏〉



ジャスミン日中芸術合唱団

2019 10.18 (金) 18:00開演(17:30開場)

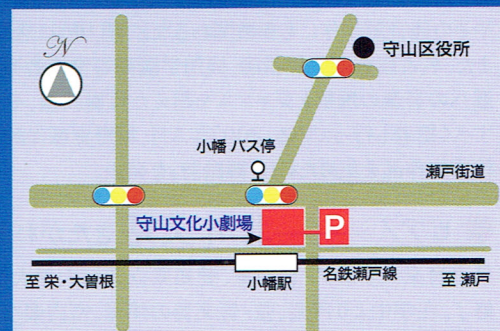
名古屋市守山文化小劇場

●入場料【一般】前売り¥2,500 / 当日 ¥3,000 【高校生以下】 ¥1,000 / ¥1,500

主催 NPO活動「サランモル」／大草原の祈りコンサート実行委員会

後援 愛知県教育委員会／名古屋市文化振興事業団／(株)大地エージェンシー

チケットお申し込み・お問合せ 090-2684-3274(山元)



※駐車場には限りがあります。
公共交通機関のご利用をお願い致します。

● 馬頭琴 ————— 李波 リボー



中国内モンゴル自治区出身。国家一级演奏家。10歳より馬頭琴を始め、15歳でプロとなる。数多くの受賞歴があり、内モンゴル師範大学卒業。中国内モンゴルラジオテレビ局芸術団首席奏者を経て、「馬頭琴を世界に広げたい」そんな夢を持って1995年に活動拠点を日本に移す。年間50〜60回のコンサート活動をしながら、国内はもとより、アメリカ・シンガポールと海外へも活動を広げる。類まれなる芸術性と技術性を合わせ持った表現で、民族音楽はもとより、現代の音楽界に新たな可能性を発信し続けており、作曲家としても馬頭琴の作品を多く創作する後継者の礎的存在でもある。

2005年愛・地球博ファイナルコンサートソリスト。2007年9月より2009年7月までの二年間アメリカの名門ワシントン大学の音楽院民族音楽学科(Division of Ethnomusicology)で、馬頭琴客員教授を務める。ビルゲイツの邸宅で一時間のコンサート出演。シアトル交響楽団やサンフランシスコ交響楽団との共演。アメリカグリーンカード取得。北京の国家大劇院ホールで三年続けてリサイタルを実現。今後はアメリカ、日本、中国三国をベースに、活動を行う。北京語言大学客員教授、内モンゴル芸術学院客員教授。内モンゴル民族芸術学院客員教授。

● テノール ————— 包金鐘 ボウジンゾン

内モンゴル東北地方出身、内モンゴル芸術学院声楽家卒業。内モンゴル電力学校教師。内モンゴル自治区青年歌手コンテスト・テナー部門で一等賞を4回受賞。世界的に有名な「内モンゴル青年合唱団」のメンバーとして各地で金賞を得、ヨーロッパを始め世界各国の合唱祭に参加するなど、中国国内でテノール歌手としてのキャリアを積む。



2001年来日。愛知県立芸術大学声楽科大学院修了。長城杯国際音楽コンクール声楽部第1位など多数受賞。世界的に著名な指導者たちからもその声質を評価され、将来が期待されるモンゴルの逸材。その歌声は、音域の広さと、美しい声で注目されており、モンゴル民謡から、日本歌曲、オペラのアリア、イタリア民謡までこなす。現在までのコンサート出演1500回以上。すばらしい草笛奏者でもある。最近では、日本国内でソロのコンサートも年間40回以上と増えており、母国のツアーでも中国歌劇院オーケストラの伴奏で歌う、新曲、枇杷随想曲「牡丹亭」の歌劇に取り組む、等、大好評を得ている。名古屋市在住。

● ガット・ギター ————— 望月雄史 もちづきたけし

名古屋市出身。クラシック・ギターを望月英男に師事。広い知識と柔軟な音楽性を武器に、ジャズ、ポップス、シャンソン、ボサノバ、ラテン、民族音楽からクラシックまで、ジャンルに囚われない伴奏者として精力的に活躍。共演者、音楽制作者の絶大なる信頼を得て各方面で高く評価されている。関東〜東海〜関西を中心に、ライブ、コンサート活動の他、演劇や朗読の音楽を数多く担当。CMやその他音源制作にも多数関わるなど、精力的に活動中。

また、名古屋音楽学校講師、同朋学園高等学校音楽科非常勤講師も務め、後進への音楽の理解とジャンルを超えた演奏技術、そして音楽性の向上を目指すべく指導も行っている。2003年5月、坂野嘉彦作曲の独奏ギターのための現代音楽作品を集めたCD「舞踏詩」を発表。

● ピアノ ————— 北川美晃 きたがわよしあき

東京音楽大学ピアノ科卒業、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科(ピアノ)修了。在学中より声楽、弦・管楽器の伴奏、室内楽などの演奏活動を始め、現

在は主に伴奏ピアニストとして下垣 真希(ソプラノ)、賈鵬芳(ジャパーンファン)はじめ、名古屋二期会など多くの演奏家、音楽団体との国内外でのリサイタル、コンサートのピアニストを務める。

クラシック以外のジャンルにおいても、沢木順(ミュージカル俳優)、黒川泰子(シャンソン)など多くの歌手との共演を行っており、クラシック、ポピュラーの両ジャンルを弾きこなすピアニストとして舞台に立っている。その他、語りや朗読との共演、絵本と音楽のコンサート企画開催など、ジャンル、分野を越えての演奏活動を行っている。

● 電子オルガン ————— 安井 正規 やすいまさのり

9歳より電子オルガンを習う。名古屋市出身。国立音楽大学卒業。NHKをはじめ民放各局の全国ネットTV番組用音楽などメディア音楽、音楽劇やミュージカル、バレエ公演など舞台音楽を始め、国民催事、国際イベントの式典音楽も多数手がけている。様々なメーカーが主催する電子オルガンコンクールで多数入賞。声楽家やボーカリスト、ソリスト、和楽器、各地の合唱団、プロオーケストラ、マーチングバンド、吹奏楽団等とのコラボレーション、共演実績も多数。また、熱田神宮創祀1900年記念造宮竣工本殿遷座祭奉祝行事において熱田神宮より依頼を受け「電子オルガンリサイタル」を開催、特別感謝状を授与される他、神社や仏閣、重要文化財、史跡などでも多数の演奏会を開催。この他にも様々なイベントにおいてのゲスト演奏、各種コンサート、講演会の他、小中高等学校の芸術鑑賞会、文化祭や合唱コンクールゲストを始め大学特別講義など多数の学校より依頼を受け、電子オルガンコンサートを開催している。

名古屋市音楽教育研究会・名古屋市音楽研究会の総会では、講師として招聘され、演題「音楽が育む豊かな心〜学校教育における即興表現の可能性〜」をテーマに講演およびレクチャーコンサートを開催。

「人や社会に役立つ音楽作り」を目指し、多彩な活動を続けている。

● モンゴル舞踏 ————— 都古ルドガラ

内モンゴル東部出身。ホロンバエルモン、内モンゴル芸術学院舞踏科卒業。ウラムチ歌舞団の花形ソリストとして活躍。ウラムチ歌舞団との群舞のソリストとして数々のコンクールで優勝。2005年来日。中国内モンゴルの紹介パンフレットには宙を舞う彼の姿が紹介されている。内モンゴルに最少数の3宝民族と呼ばれるオルチョン族・ダゴル族・オウнка族があるが、彼はダゴル族の出身である。(母はオウнка族 父がダゴル族)

● 中国舞踏 ————— 劉晶晶 リウウシンシン

舞踏ダンサー、振付師。遼寧歌舞藝術学校を卒業。元遼寧歌舞団団員。豊富な舞台経験と指導能力があり、中国での4級舞台出演ライセンスを持ち、中国舞踏に対する素晴らしい表現力を持つ。現在、岐阜県可児市在住、晶舞踏教室に所属。

● ホーミー ————— 温都蘇 ウンドス

馬頭琴演奏者、中国内モンゴル出身。モンゴル族。

1989年生まれ。内モンゴルで馬頭琴を習得、2008年来日。モンゴル民謡を中心としての演奏や、小学校の子どもたちへの馬頭琴出前授業などの文化活動をしている。来日後も更に研鑽を積み、モンゴル独特の歌唱法「ホーミー」、その伴奏楽器である「トブショール」を演奏する。馬頭琴奏者リボーの舞台のオープニングをホーミーで行うなど実績を積んでいる。最近では日本の若者たちのロックグループとのコラボレーションでジョイントコンサートを開催したりと、新しい音楽シーンにも取り組んでいる。馬頭琴をエルダンバハ師に師事。「ホーミー」「トブショール」を第12代テルムジ師(祖先が代々ホーミー家系)に師事。

● ジャズミン日中芸術合唱団

2017年9月、包金鐘の主宰する金鐘アンサンブルの熱意で結成される。包金鐘を指導者に迎え、主にアカペラでのコーラス、ハーモニーの美しさを求めて活動している。2017年11月初演以来、第12、13回名古屋中国春節祭及び応援交流会、コンサート「悠久の愛」で熱唱。2018年の名古屋市港区合唱交流会など様々な活動で高評価される。チャリティーコンサートにも出演、社会貢献に積極的に取り組み、日中友好の架け橋としての活動に力を入れている。